

## 大方高校 女子サッカー部始動

大方高校に女子サッカー部が創設され、5月中旬から活動を開始しています。

特色ある部活動を作り高校の魅力化を図ることを目的に、同高校と町が協力し準備を進め、監督は(一社)セレッソ大阪スポーツクラブから派遣された申政勲(シシマツナ)さんが務めています。

部員は現在3名で、週5日、大方中学校のサッカー部や中学生女子チーム「ハタメイシエ」などと連携しながら練習を行っています。

申監督は、「まずは試合ができる人数を集め、今年度中に公式戦1勝をめざしたい」と話し、1年生の喜多あすかさんは、「高校の部活でサッカーができて、プロの



練習中の申監督(左)と生徒ら

監督に教えてもらえて嬉しい。メンバーを集めて頑張りたい」と話しました。

## 黒潮町公設塾開講

町が運営する公設塾「黒潮町進学塾コンパス」が開講し、6月12日(金)に第1回目の授業が、17日(水)には開講式が行われました。

同塾は、人材育成の教育現場である大方高校と町が連携し、町内高校生基礎学力の向上および個性や才能を伸ばす機会を提供し、希望進路の実現を応援することを目的に設置されました。対象者は、町内に住む高校生と大方高校の1・2年生で、(株)土佐塾(高知市)から講師が派遣され、週2日、1回約2時間の授業が実施されます。



看板掛けの様子

開講式では、大西勝也町長が「将来に夢を持ち、目標進路の実現のため積極的に活用してほしい」と話しました。



授業を受ける生徒ら

入塾した大方高校2年の中平梨夢さんは、「進学するため、塾でしっかり学びたい」と話しました。

## 町産の葉たばこが日本一に

町で生産している葉たばこが「令和元年産葉たばこ市町村別販売実績」の1kg当り代金で日本1位に輝きました。

葉たばこは、町内で約100年前から栽培され、現在は9軒の農家がJT(日本たばこ産業株式会社)と契約し生産しています。今回は、1kg当りの代金が2千149円で全国1位となり、品質の良さが認められました。

四国たばこ耕作組合で副組合長を務め、町内で葉たばこを生産する柿内節男さんは、「黒潮町は、気候が温暖で水が豊富。水はけが良い土壌で、葉たばこの栽培に向いている土地。また、今回は、各農



収穫作業中の柿内さん

家でこたわって作っている堆肥などが良い結果につながったと思う」と話しました。

## 入野松原で薬剤散布

5月25日(月)から28日(木)まで、入野松原で防虫のための薬剤散布が幡東森林組合により行われました。

入野松原では、近年、マツクイ虫による被害が拡大していて、昨年は約2千6百本のマツが伐採されました。同薬剤散布は、ラッキョウの収穫時期などの関係で、例年6月20日頃に行われていましたが、入野松原を守るために関係機関による協議が行われ、今年はマツクイ虫の活動が活発になる5月に約1カ月早めた散布が実施されました。また、6月29日(月)から2回目の薬剤散布が行われる予定です(6月23日現在)。



薬剤散布を行う作業員

幡東森林組合の吉門誠さんは、「入野松原の存在が町の宝なので、国や県の指導を仰ぎながらできることをしたい。また、町民の皆さんも松原沿いや砂浜などにゴミが落ちていたら拾うなど、美しい松原を守ってほしい」と話しました。